

お父さん、いつもありがとう。この一言が毎日のふとした一瞬に、僕の口からすんなりと出てくればよいのにと、お父さんが夜遅くまで家事をしている時や家族のご飯を作っている時に時々思います。

でも、そんなことが僕にはできこないのでこの少年の主張という機会をいかして、普段僕がお父さんに対して思っていることを言います。

お父さんへ、毎日お疲れ様です。お父さんは毎朝、みんなの朝ご飯を用意し、弟や妹達の朝の準備をたった一人で毎日こなします。

そして、みんなが朝家を出てやっと落ち着いたと思えば休む間もなくお父さんは仕事に行きます。

夕方、仕事からお父さんは疲れて帰って来ると、すぐに弟、妹達を迎えに行きます。お父さんはヘトヘトになって帰って来ているのにみんなのご飯をつくってくれます。お父さんのつくるご飯はとても美味しいです。僕はお父さんのつくる「明太子パスタ」が大好きです。

そして、弟達が寝て、家が静かになったころ、お父さんは、家族六人分の洗濯をはじめます。家族六人分となると相当な量になります。

このようなことを毎日こなすお父さんを見ている僕には、痩せてほっそりとしているはずのお父さんの背中がとても大きく、格好よく見えます。

お父さんへ、たまにはゆっくりと休んでください。お父さんはいつも家事をこなし、仕事に行き、とても疲れがたまっていると思います。

だから、たまには子どもの僕達のようにお父さんが好きなこと、ゴルフ、漫画、いろいろあると思いますが、そのお父さんの好きなことを好きなだけしてください。

そして思いきり楽しんで笑顔になってください。僕達が笑顔で毎日過ごしているのはお父さんのおかげです。たまにはその笑顔を僕からも送りたいです。お父さんの幸せは家族みんなの幸せです。

お父さんへ、いつもどおりの毎日を送らせてくれてありがとう。いつもと変わらない何気ない朝が迎えられて、いつもどおりの日々を送ることができているのはお父さんのおかげです。お父さんが僕達家族、みんなのことを一番に想ってくれて、大切にしてくれていることを僕は、とても幸せに感じています。

お父さんの子どもとして生きている今がとても幸せです。

お父さんへ、これからも僕のそばにいてください。お父さんや家族のみんなといるときが僕が一番、僕自身そのものを出せるときです。お父さん達といると、嘘偽りのない自分が僕の心の中から出てきてくれます。これが安心感であり、ここが僕にとって心を休め、解放される場所だということに最近、気付きました。

この安心感というものが今までに知らず知らずのうちに、僕のことを守ってきてたんだと思います。

これからもお父さんがもつその安心感で僕を助けてほしいです。

これからも僕は大きくなります。

そして、いつか大人になった時、お父さんが僕に対して注いでくれた溢れんばかりの愛情を僕も誰かに与えられるようになりたいです。

僕にとってお父さんは一生をかけても追い越すことのできない永遠の目標です。

その僕の永遠の目標であるお父さんと肩を並べる、お父さんのような格好良い人になれた時、お父さんに親孝行をできたらよいなと思います。待っていてください。

最後にお父さん、いつもありがとう。